

1 学習に取り組んでいる主な分野

<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 海洋	<input type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ()	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は海洋教育を推進しており、みなと小学校、天領小学校と連携しながら、海洋に関わる課題解決を図る学習を展開している。特に、本校は、「森・川・海」のつながりを通じた3校合同の海洋教育へと発展できるように実践を進めており、関連するSDGsの目標13・14・15を中心に、海洋教育の4つの視点「海に親しむ・海を知る・海を守る・海を活用する」を系統的に仕組んだ活動計画を作成し、実施している。



3 特徴的な活動事例の紹介

○【6年生】竹を活用した環境保全

校区の森林調査を行う中で、手入れされていない竹林が多くあることがわかった。そしてそれらの竹林は根が浅いため、山崩れの原因になることや、広葉樹の森林と比較して、土壌の栄養が少なく、山の環境、さらには海の環境に影響を及ぼしていることを知った。しかし、「竹害」から「竹財」へと考えを転換し、竹を活用することが大切であることに気づいた。そこで、天領小やみなと小、台湾の人たちへこのことを発信し、山の環境を守る大切さを呼びかけた。



○【5年生】山・川・海とのつながりの学習と環境保全

有明海で珍しい生物が生息しているのは、山の土壌から染み出た栄養が川を伝って海に流れ込むからだということをG T等の話から学習した。そして、森林を守ることが川や海の生き物や豊かな有明海の環境保全につながるという「山・川・海」のつながりを理解した。



○【4年生】有明海のゴミ問題の解決と環境保全

校区のゴミ調査をする中で、上流にある野間川にはゴミが少ないのに対して、支流の諏訪川、有明海と辿るにつれてゴミが増えていくことに気づいた。川の環境を守ることが海の環境を守ることになることに気づき、他学年へごみのポイ捨ての禁止を呼びかける発信を行った。



○【3年生】地域を流れる川の生き物調査

川や海で生物調査を行い、地域を流れる野間川で清流にしか生息しないホタルやメダカなどを、有明海でムツゴロウなどの珍しい生き物を見つけた。そして、カザミの放流も体験し、大牟田の川や有明海には、様々な生き物がいることを理解した。



3 今後の活動計画

令和6年度は、E S Dにおいて、さらに海洋教育を柱とした体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、

1. 海洋教育の目指す資質・能力を明らかにしながら系統的なカリキュラムになるように活動内容の見直しとねらいの明確化を図り、令和5年度までの実践をさらに深めていく。
2. SDG s の視点を子どもたちに意識させる学習となるように、身近な「ひと・もの・こと」を活用した教材開発を行い、効果的な活用方法を探求する。

さらに、様々な体験活動や協働学習を位置づけ、子どもたちが主体的に活動を広げていくことができるような学習を展開し、学んだことを効果的に発信できるような活動を展開する。